

シグマ研究専門委員会 核データ専門部会
核データ検索システムワーキング・グループ
47年度第2回会合議事録

日 時 昭和47年8月4日(金) 13時30分~17時
場 所 日本原子力研究所東海研究所V.d.G建屋29号室
出席者 五十嵐信一(原 研), 加藤 和明(高エネルギー研)
金森 善彦(原 研), 川合 将義(NAIG)
中川 庸雄(原 研), 西村 和明(原 研)
八谷 雅典(三井造船), 更田豊治郎(原 研)
山越 寿夫(船 研)

配布資料

1. 前回議事録
2. NESTORに関する覚え書(案)
3. データ三次元表示に関する資料(加藤委員提出)

議 事

1. 前回議事録の確認

訂正

P. 3 8行目 今までに入手したデータの処理については中川委員が検討し、次回に具体案を提出することにした。

次のように訂正する。

今まで入手したデータの処理については中川委員が担当する。

- a. 修正コード

コメントの格納と同様3委員が検討し、次回に具体案を提出することにした。

2. COMFORDの件

COMFORDに関する作業として次の様なことを検討した。なおこれらは最終的な結論ではなく、一応作業内容をみた程度にとどめる。

2-1 システムのまとめについて

COMFORDは共鳴パラメータを格納し、格納されたパラメータ・データのファイルを使って strength function, F_n^0 の分布, level spacingの分布といった統計的処理を行うことができる。COMFORDについてはかつて、1968年のWashington会議の proceedingsに発表されているだけで、いまだ正式な報告書は書かれていない。今後のまとめ方について、更田、中川の両委員が検討することにした。

2-2 データの格納について

現在のところ核データ評価ワーキング・グループの中の共鳴パラメータ収集グループが集めたデータ等を入れることになっている。またNESTORに入っているデータを入れることも考えられるが、COMFORDとNESTORで、データの並びが違っている点に若干の問題があり、簡単には出来そうもない。あるいは、BNL 325に収録されているデータを入れることも考えられる。

2-3 COMFORDを使っての作業

- (イ) 共鳴パラメータの評価
- (ロ) strength functionの計算
- (ハ) その他の統計量の計算

などが考えられる。

2-4 システムの拡張

(イ) ヲを入れる。

(ロ) NESTORの subfile としての拡張が考えられる。

以上の様な議論があつたが、今後、更田、川合、中川の3委員でCOMFORDによる作業の検討を進めていくことにした。

3. NESTORの件

3-1 統一見解

前回の会合で提案された通り、更田、五十嵐、中川の3委員が当ワーキング・グループとしての「NESTORに関する統一見解」の案を作成し、資料2として提出した。この資料を基に検討し、別紙1の様な統一見解を作成した。

3-2 コメントについて

コメントについても、金森、五十嵐、中川の3委員が検討して次の様な提案を行った。

(イ) データのインデックスに、そのデータを入手した日付または修正を行った日付と、第1著者名を入れる。

(ロ) その作業量は分担すれば1人1000枚位のカードを作成ことになる。

この提案通り承認されたので、コメントのFormatが決定し次第、日を決めてまとめて作業を行う事にした。

3-3 修正コードの作成

NESTORのデータを修正するコードの機能としては多くのことが考えられるが、一応早急に必要な修正である、インデックスにコメントを加える修正が可能なプログラムを作成する。この作業は中川委員が担当する。またさらに別の修

正の必要が出て来るであろうからプログラムはその度に拡張が容易なものとする。

4. データの現状を表示するシステムについて

五十嵐，中川両委員が検討した結果は次の通りである。

(イ) 評価済みデータについてはインデックス作成作業が膨大なものとなるので当分無理である。

(ロ) 実験データの方は，NESTORのインデックスを直接使うことができる。まだ表示するプログラムは考えていない。これに関する議論は特になかった。

5. データの3次元表示について

加藤委員から資料3に基いて紹介があった。

6. 次回

次回は，3-2で検討したフォーマットが出来次第行方。

以上

NESTORに関する覚え書

核データ検索システムワーキング・グループ

過去、数回にわたって行なわれてきたNESTORに関する議論を次の通り整理した。これをもって当ワーキンググループの統一見解とする

1. 名称について

「NESTOR」とは実験データ格納検索システムにつけられた名称である。ここでシステムとはデータを処理するためのプログラムを意味する。一方NESTORで格納されたデータ群を「NESTOR-L (library)」と呼ぶ。

2. NESTOR-Lについて

- 1) NESTOR-Lは、主としてCCDNから受け取った実験データを有機的に活用するために作られたもので、もうらの的に収集・改訂するたてまのデータライブラリーを目的とするものではない。
- 2) NESTOR-Lには、そのStatusを明示するため、CCDNからデータを手した日付、または修正を行った日付等をコメントとして記録させる。また修正を行ったデータ、日本国内のデータ、NEUDADAに入っていないものなどについては、それを検索してCCDNへ送ることもありうる。

3. データリクエストについて

国内からのデータリクエストには、

- (イ) CCDNへリクエストし、NEUDADAのデータを手する。
- (ロ) NESTOR-Lの中から検索してリクエストにんずる。

の2つの処理方法が考えられる。データ送付の際は、データの取扱い

に関する注意書（核データ研究室が作成）を添付すべきである。（ロ）については、要求者の了解を前提とする。

なお、リクエストに答える作業は、当ワーキング・グループの作業範囲ではないと考える。

（注： NEUDADAのデータは刻々と新しいデータが追加されたり、データの修正があつたりするのでデータの使いすてが建前である。）

以上